

〔中・上級問題集の訂正について〕

問：問題文についての訂正

答：答についての訂正

説：解説についての訂正

【船の歴史】

5 - 3

説 船艇の表に誤りがありました。

海上保安庁の船艇http://www.kaiho.mlit.go.jp/syoukai/soshiki/gijyutu/ship_air.htmlに基づき修正します。

PL：900トン型以上の巡視船 → 700トン型以上の巡視船

PS：130トン型以上の巡視船 → 350トン型未満の巡視船

PC：23メートル型以上の巡視船 → 20メートル型以上の巡視船

CL：15メートル型以上の巡視船 → 20メートル型以下の巡視船

HS：50トン型未満の測量船 → 小型測量船

LL：800トン型設標船 → 500トン型以上の航路標識測定船

6 - 2

説 船尾付近から水面に出されている「3本のオール」は、「2本のオール」の誤りです。

7 - 1

説 宝船の大きさが違います。44.4尺(124.3m)は、414.4尺の誤りです。

8 - 1

答 説 ネルソンが揚げた旗旒信号は31枚や33枚という説がありますが、england expects ~から始まる本文は31枚で、全艦に告ぐ、という意味の通信旗をメインマスト頂部に掲げてから発信するので、32枚とするのが定説といわれています。最後に通信を終わる旗を揚げますが、これは基本的に数に入れません。

【船の文化】

15 - 2

問 SMCP(Standard Marine Communicaton Phrases)のCommunicationに「i」が抜けていました。

【船の文化】

29 - 1

説 「スエズ運河の上限は、載荷重量トン数137,000DWT、コンテナ積載数14,000TEU、全長400m、幅50m、喫水15m以内ですが、総トン数151,687tの<エマ・マースク>のそれは、156,907DWT、14,000TEU、398m、56m、15.5mとなっています。」の解説では、エマ・マースクはスエズ運河を通れないことになってしまいます。全長400m、幅50m、喫水15m以内の記述は、スエズ運河を航行できる大体の目安で、これより幅が広くても喫水が深くても通航することができますが、その点の記述が抜けておりました。

スエズ運河は、運河の幅や深さが一定でないため、通航可能な最大サイズ(スエズマックス)は幅が広ければ喫水は浅くなり、幅が狭ければある程度喫水の深い船ということになります。エジプトのスエズ運河庁による船幅と喫水の対応表が出ており、それぞれの上限は次のようになっています。

最大幅：254ft,3in(77.7m)

最大喫水：62ft(18.9m)

最大幅 254ft3in のときの最大喫水は、40ft(12m)で、最大喫水 62ft のときの最大幅は164ft(50m)です。

ちなみに全長の制限は無く、最大空中高さは、ムバーラク平和大橋をくぐれる 68 メートルです。

なお、エマ・マースクの船幅 56mに対応する最大喫水は 16.7mなので、十分航行可能です。

【船の仕組み】

31 - 3

説 スエズ運河(最大喫水 18m)との記載は、前述 29-1 のとおりで、もう一つ正確性を欠いておりました。現在スエズ運河は拡張工事を行っており、まもなく最大喫水 21.3m まで航行できるようになるようです。

【船の運航】

34 - 3

説 欧州宇宙機関(EPA)は、問にあるとおり「ESA」の誤りです。

36 - 3

説 「コンパスは北を差しません」の差すは、「指す」の誤りです。

39 - 3

答 (4) 水産庁 ... 漁業監督吏員 「吏員」は、地方公務員で官庁(水産庁)所属ではありません。漁業監督吏員は漁業監督官に訂正します。

【船の遊び】

46 - 2

説 小説「高瀬川」 → 「高瀬舟」の誤りです。

48 - 2

答 (2) 洞口雄大 ... 仲口博崇 博崇は仲口親子の息子のほうでまさに洞口雄大のモデルです。間違いを博崇の父親である仲口俊博とすべきところを正しいまま載せてしまいました。この問題は全て正解です。